

教育内容	基礎分野【科学的思考の基盤】	開講時期	1年前期	授業形態	講義
科目名	科学 I	単位数	1単位	時間数	15時間
		担当教員	久保田篤子		
授業概要	<p>看護技術の原理原則や科学的根拠の理解につながる、生物・化学の知識学ぶ科目とする。  また、解剖生理を理解できるための前段階となる知識を学ぶ科目とする。  日常生活援助の環境(内部環境・外部環境)、食事、排泄、活動、休息、清潔につながる生物のエネルギー産生のしくみ、細胞の構造と機能、消化吸収のしくみ、老廃物の排泄、体温調節、脳神経やホルモンによる伝達の仕組み、休息に関するサーカディアンリズム、睡眠、汚れの落ちる仕組み、代謝や化学反応などを学ぶ内容とする。</p>				
回	授業内容				授業方法
1	生物を形作る最小単位の細胞の不思議 生物の細胞の構造と機能 細胞の分裂				講義
2	生物が栄養と水と酸素が必要なわけ 呼吸・消化吸収の仕組み エネルギーの産生のしくみ				講義
3	体に不要な物が排出される仕組み 体に必要な物と不要な物 体外にどのようにして不要な物が排泄されるか				講義
4	体温をどのように調節しているか 変温動物の場合 恒温動物の場合				講義
5	外部・内部からの刺激や脳からの指示の伝わり方 伝達経路と伝達物質 脳と脳神経 ホルモン				講義
6	生物の休息や睡眠の意味としくみ 冬眠 サーカディアンリズム レム睡眠・ノンレム睡眠 生物にとっての清潔 汚れの除去 毛づくろいなど お風呂に入るのは人間だけ？				講義
7	日常にある化学 栄養と代謝を化学的に学ぶ。 石鹼が汚れを落とす仕組み				講義
8	日常にある化学 化学反応と色 酸性とアルカリ性 化学反応と中和				講義
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストなどで総合的に評価する。				
教科書	資料 講師指定の教科書				

教育内容	基礎分野【科学的思考の基盤】	開講時期	1年前期	授業形態	講義
科目名	科学Ⅱ	単位数	1単位	時間数	15時間
		担当教員	久保田篤子		
授業概要	<p>看護技術の原理原則や科学的根拠の理解につながる、数学・物理の知識学ぶ科目とする。  また、解剖生理を理解できるための前段階となる知識を学ぶ科目とする。  看護援助に必要な力学(力のモーメント、てこの原理、重力、慣性の法則、圧力など)、解剖生理を理解するために必要な物理的知識(浸透圧、濃度、電気) 看護援助に必要な数学(速度・割合・濃度などの計算)を学ぶ内容とする。</p>				
回	授業内容				授業方法
1	看護援助に必要な力についての物理的学び 力のモーメント てこの原理 重力 圧力 慣性の法則				講義
2	看護援助に必要な力についての物理的学び 重心 重心移動 摩擦 抵抗				講義
3	人間の解剖生理に関する物理的学び 浸透圧 濃度 電気 電流				講義
4	人間の解剖生理に関する物理的学び 音(音の伝導・音の大きさ・音の高低) 振動 水 温度 熱エネルギー				講義
5	人間の解剖生理に関する物理的学び 縮小と拡大(膨張・拡散) 光とレンズ				講義
6	看護援助に必要な数学的学び 四則計算 少数 分数に慣れる 面積 体積 図表の意味				講義
7	看護援助に必要な数学的学び 速度 割合 濃度の計算				講義
8	数学的命題から証明することを学ぶ。 数学の定理をつかって、事象を証明する。				講義
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストなどで総合的に評価する。				
教科書	資料 講師指定の教科書				

教育内容	基礎分野【科学的思考の基盤】	開講時期	1年前期	授業形態	講義
科目名	論理学	単位数	1単位	時間数	15時間
		担当教員	銭谷秋生		
授業概要	「証拠に基づいた看護」のためには、直観や勘に頼るのではなく、あくまでも論理的にきちんと考え、考えたことを表現・実行する必要がある。この講義では、「論理的に考える」とはどのようなことであり、何が必要となるのかを学習する。				
回	授業内容				授業方法
1	「論理的」とはどのようなことであり、なぜ学ぶ必要があるのか。				講義
2	論理は文と文の接続において姿を現わす(1)——重要な接続関係を押さえる。				講義
3	論理は文と文の接続において姿を現わす(2)——接続の構造を読み取る。				講義
4	議論の構造——主題・問題・主張のつながりを読み取る。				講義
5	論証の構造(1)——論証図をつくる。				講義
6	論証の構造(2)——論証の二つのタイプ——演繹と推測				講義
7	推測の証拠を固める。				講義
8	論証を批判的に捉える。				講義
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストなどで総合的に評価する。				
教科書	資料 講師指定の教科書				

教育内容	基礎分野【人間と生活・社会の理解】	開講時期	1年前期	授業形態	講義
科目名	文学	単位数	1単位	時間数	15時間
		担当教員	萩原敏行		
授業概要	優れた文学作品を読み鑑賞し、自らも文学表現を試みることで、看護師としての豊かな人間性、細やかな感性、高い倫理観を養う内容とする。文学作品を通じてさまざまな愛、孤独、死生観などへの考えを深め、自他の内面を理解し表現するための知識及び技能を習得する学習活動を行う。				
回	授業内容				授業方法
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンス</li> <li>・看護師にとっての文学</li> <li>・表現</li> </ul>				講義
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感性を磨く文学</li> <li>俳句で磨く季節感(晩春)</li> <li>・文学を読む</li> </ul>				講義
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感性を磨く文学</li> <li>詩で磨く言語感覚</li> <li>・文学を読む</li> </ul>				講義
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感性を磨く文学</li> <li>短歌で磨く人間観察(鑑賞)</li> <li>・文学を読む</li> </ul>				講義
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「物語る」技法</li> <li>象徴の読み取り</li> <li>・文学を読む</li> </ul>				講義
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「物語る」技法</li> <li>変身作文・多面的なものの見方</li> <li>・文学を読む</li> </ul>				講義
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「物語る」技法</li> <li>翻作作文・批評文を書く</li> <li>・文学を読む</li> </ul>				講義
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本の特徴と創作の技法</li> <li>プロットの立て方</li> <li>・絵本の交流会</li> </ul>				講義
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストなどで総合的に評価する。				
教科書	資料 講師指定の教科書				

教育内容	基礎分野【科学的思考の基盤】	開講時期	1年後期	授業形態	講義
科目名	人間関係論	単位数	2単位	時間数	30時間
		担当教員	萩原敏行		
授業概要	良い関係性を成立するために人間と人間の関係性の構築について学ぶとともに、関係性を築く上で必要不可欠なコミュニケーションを理解し、コミュニケーション技術を身につける内容とする。				
回	授業内容				授業方法
1	・ガイダンス 人間関係論とは ・人間関係の中の自己と他者(自己認知・対人認知)				講義
2	・対人関係と役割 対人関係の成立・維持と崩壊 対人葛藤と対処				講義
3	・態度と対人行動 説得的コミュニケーション(攻撃 援助)				講義
4	集団と個人 集団での課題遂行、問題解決・意志決定 リーダーシップ				講義
5	・看護師のためのアサーショントレーニング① 理論編				講義
6	・看護師のためのアサーショントレーニング② アグ・ノンアサ実践編				講義
7	・看護師のためのアサーショントレーニング③ アサーティブ実践編				講義
8	・論理的な話し方・聞き方① — 非論理的な話し方の特徴 ・敬意表現とは				講義
9	・論理的な話し方・聞き方② — 論理的な話し方の特徴 ・尊敬語について				講義
10	・話上手になるために① — エトスの実践的練習 ・敬語練習①				講義
11	・話上手になるために② — パトスのつかみ方 ・敬語練習②				講義
12	・話上手になるために③ — ロールプレイ ・敬語練習③				講義
13	・ディベート① 理論編・準備編				講義
14	・ディベート② トーナメント				講義
15	・ディベート③ トーナメント				講義
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストなどで総合的に評価する。				
教科書	資料				

教育内容	基礎分野【人間と生活・社会の理解】	開講時期	1年前期	授業形態	講義
科目名	人間発達論	単位数	1単位	時間数	15時間
		担当教員	神 郁雄/久保田篤子		
授業概要	<p>人間の成長・発達を身体的・精神的・社会的側面からとらえ、発達理論を用いて、人間の発達各期の特徴を理解し、発達各期の健康課題をヘルスプロモーションの視点からとらえることで成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学で学ぶ看護の基礎的知識につなげる。</p> <p>また、看護の実践場面で対象の立場から支援するために発達の心理、人格と適応、カウンセリングについても学ぶ内容とする。</p>				
回	授業内容	授業方法	講師名		
1	人間の発達の特殊性	講義	神		
2	発達の意義	講義	神		
3	人間の発達と教育	講義	神		
4	発達理論(エリクソン・ハヴィガースト・ピアジェ・フロイトなど) 外界を理解する知覚・感覚のしくみ 記憶のメカニズム 短期記憶と作業記憶 長期記憶と忘却	講義	久保田		
5	ライフサイクルと発達(小児期・学童期)0～12歳まで ライフサイクルと発達(思春期・青年期)12～30歳まで 身体的・精神的・社会的側面の発達 発達が健康に及ぼす影響と健康課題	講義	久保田		
6	ライフサイクルと発達(成人期・壮年期・老年期)30歳以降 身体的・精神的・社会的側面の発達 発達が健康に及ぼす影響と健康課題	講義	久保田		
7	各ライフサイクル期の健康課題と支援 性格とパーソナリティ 性格の理論 性格の測定	講義	久保田		
8	心の適応と不適応 心理療法(カウンセリングなど) 患者の心理 医療・看護者の心理	講義	久保田		
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストなどで総合的に評価する。				
教科書	資料 医学書院:系統看護学講座 心理学 教育学 小児看護学概論・小児臨床総論				

教育内容	基礎分野【人間と生活・社会の理解】	開講時期	1年前期	授業形態	講義
科目名	社会生活論	単位数	1単位	時間数	15時間
		担当教員	喜山朝彦		
授業概要	個人、家族、身近な地域から人間と社会の関係について理解し、「暮らし」という視点で地域を学ぶとともに、現代社会の特徴と社会の問題点について考える内容とする。				
回	授業内容				授業方法
1	近代における<個人>と<社会>について				講義
2	日本社会と「世間」の概念				講義
3	B. アンダーソン「想像の共同体」論から見た現代社会				講義
4	近代家族の理念と現実				講義
5	現代社会とネオ・リベラリズムの理念的特徴とその仕組み				講義
6	ネオ・リベラリズムの問題点と日本社会の動向				講義
7	現代社会を読み解く視点と「生きる力」				講義
8	地域の中の「暮らし」、「暮らし」のある地域と社会				講義
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストなどで総合的に評価する。				
教科書	資料				